

教職教養Training動画

教育原理① 教授—学習理論、教育課程

講義1 教授—学習理論

基本問題①+解説



講師：永井大樹



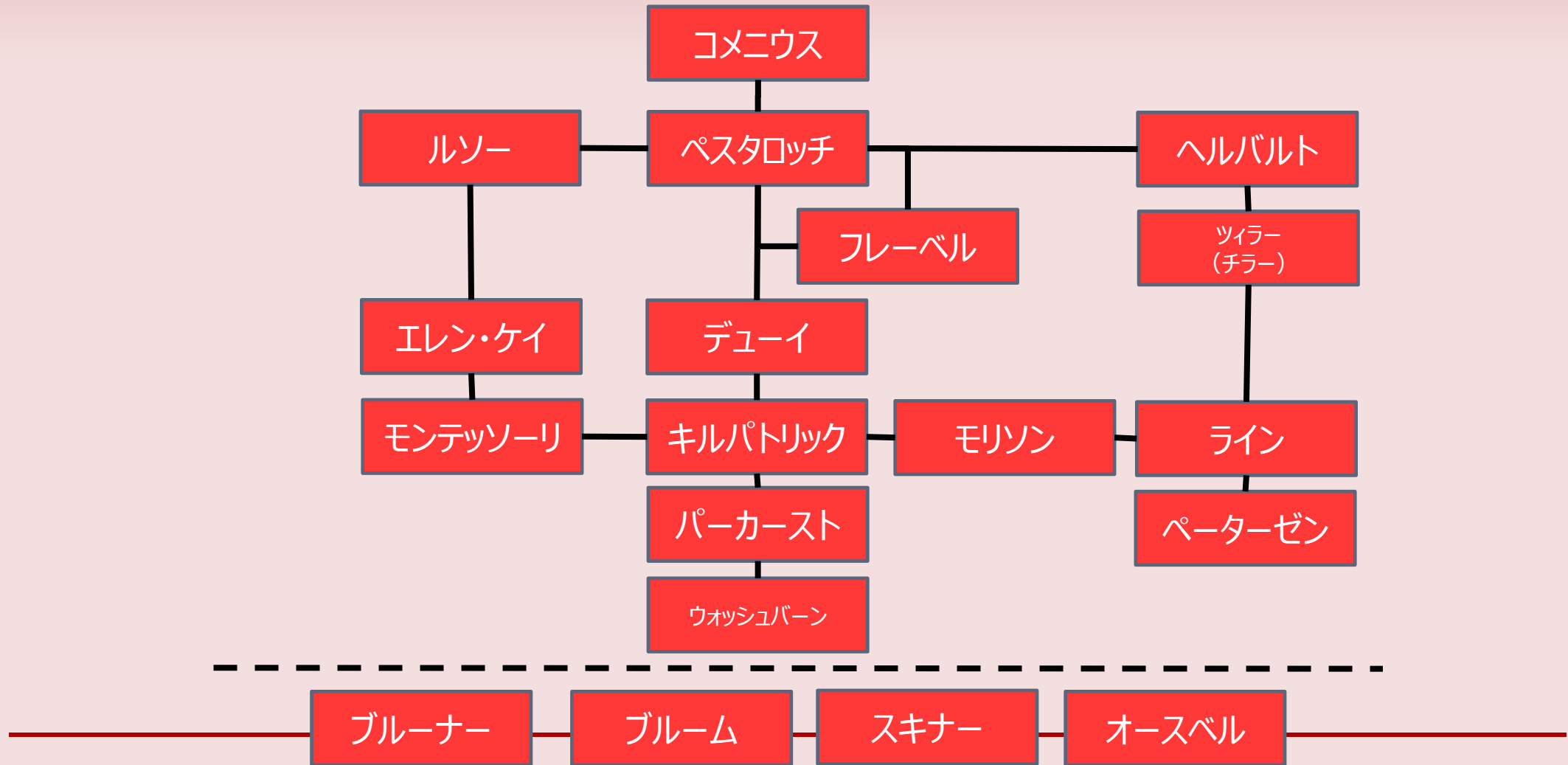
月刊『教員養成セミナー』2017年1月号収録

講義 1 のポイント

教授 – 学習理論



教授—学習理論の系譜



基本問題①

教授－学習理論について述べたものとして、正しいものを選べ。

- (1) 経験論哲学の父と呼ばれる、イギリス名誉革命を代表する思想家であるカントは、著書『人間悟性論』において、「精神白紙説（タブラ・ラサ）」を唱えた。
- (2) 貧民や孤児の救済、民衆教育に尽力したデューイは、労作教育と直感教授を重視した。著書に『隠者の夕暮』『白鳥の歌』などがある。
- (3) ペスタロッチは、教育の究極の目的は「道徳的品性の陶冶」であるとし、そのための教授の形式的段階として、明瞭－連合－系統－方法の4段階教授法を提唱した。
- (4) ブルーナーが開発したプログラム学習とは、オペラント条件づけ（道具的条件づけ）の理論に基づき、ティーチング・マシンを用いる個別学習の方法である。
- (5) オースベルは、本来の学習に入る前に先行オーガナイザー（予備知識）を与えることで、理解を容易にする有意味受容学習を提唱した。
- (6) ウィネトカ・プランは、アメリカのイリノイ州ウィネトカ市の小中学校でキルパトリックが実施した教育プランである。
- (7) 年齢別学年・学級を廃止して低・中・高学年に分け、共同生活と自己活動重視の集団教育を実施する教育プラン、イエナ・プランを実施したのはパーカーストである。

